

## 5. コンポジットレジン・パルフィークの歯髄に 及ぼす影響に関する実験病理学的研究

○藤田 正典, 藤田 英樹 (諫早市・開業)

後藤 譲治 (長大・歯・小児)

小児期並びに青少年期の審美的歯冠修復にあたって、コンポジットレジンが多用されている。近年新たな理論によって開発されたコンポジットレジン、パルフィーク及びそのライナーを生活歯に用いた場合、歯髄に及ぼす影響に関しては未だ解明がなされていない。そこで、本法の歯髄に及ぼす影響を究明する目的で、成犬の歯牙を用いて実験病理学的検索を行った。

実験方法としては、成犬の歯牙に対してエアータービン（360,000回転）を用い、注水下に5級窩洞を形成した。これらの窩洞に、パルフィーク附属のライナーを塗布後、パルフィークを充填した実験群をライナー群とした。

また、窩洞にライナーを用いることなしにパルフィークを充填した実験群をレジン群とした。また、窩洞に酸化亜鉛ユーージノールセメントを充填した群をコントロール群とした。そして、術後3日、7日、14日、30日間飼育後に屠殺し、通法に従い病理組織切片標本を作成し、顕微鏡下に観察を行い、各実験群の比較を行った。その結果若干の興味ある知見を得ることができたので報告する。